

令和7年度 全国学力・学習状況調査

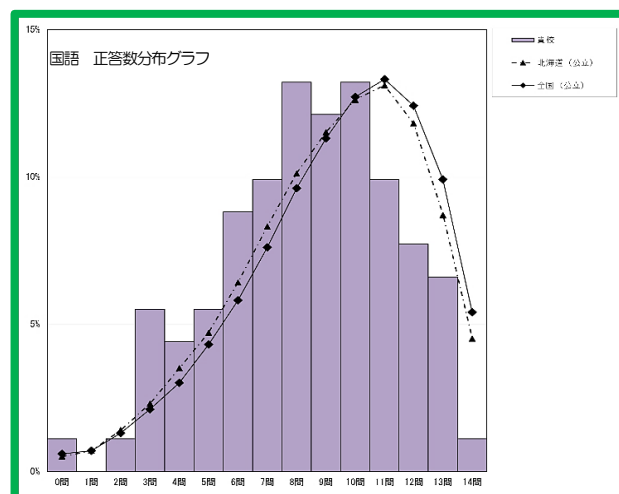
本校の結果について

保護者・地域の皆様には日頃より本校の教育活動にご支援・ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

さて、4月に6年生を対象に実施しました、全国学力・学習状況調査の本校の結果と分析についてお知らせします。この調査は、全国的な児童生徒の学力並びに学習状況を把握し、今後の学習指導に役立てることを目的として行っています。本校もそれを踏まえ、調査結果を学力向上の取組に生かしています。

1. 平均正答率の結果（全国平均の比較で）

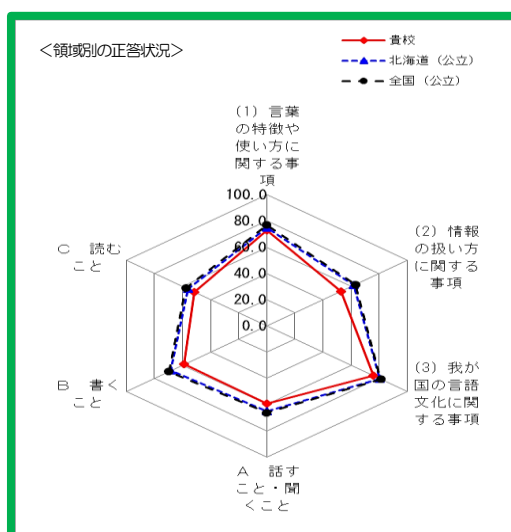
	全国平均との比較
国 語	低い
算 数	低い
理 科	低い



2. 教科ごとの結果・分析（全国平均の比較で）

領 域	全国平均との比較
話す・聞く	下回っている
書 く	下回っている
読 む	下回っている
言語事項	下回っている

問題形式	全国との比較	無解答率
選択式	下回っている	0.5%
短答式	やや上回っている	1.5%
記述式	下回っている	2.2%



★国語全体として・・・全国平均よりも「低い」結果となりました。

★正答数別人数から・・・

14問中10問以上（正答率70%以上）正答している児童は約39%。14問中4問以下（正答率30%以下）の児童は約12%。下位～中位の子が多い傾向にあります。

★領域（「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」）別に見ると・・・

「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」の4領域全てで全国を下回っています。特に、「記述式」問題の正答率が低いです。答えるための条件に合わせながら、自分の考えをまとめて書いたり、目的や意図に応じて要約したりすることを苦手としています。

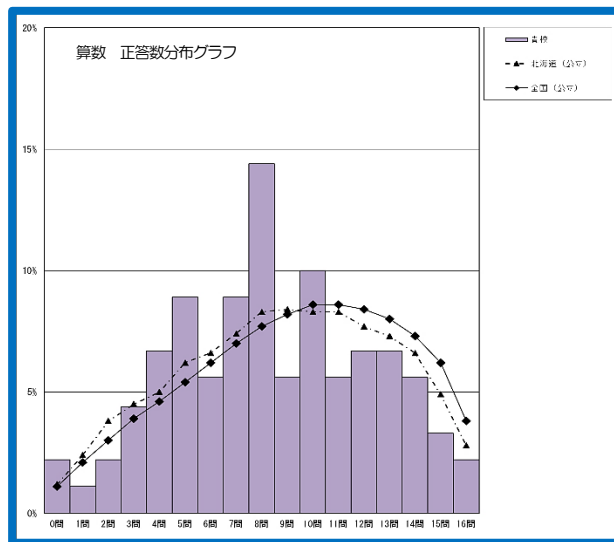
★問題形式で見ると・・・「選択式」「短答式」「記述式」とも全国を下回っています。特に記述して答えることを苦手としています。

★無解答率で見ると・・・3つの問題形式とも全国より低かったです。特に「選択式」の無解答率は0.5%で、ほぼ全員が答えを書いたことになります。あきらめずに問題に向き合い、答えを導き出したことがうかがえます。本校に限ったことではありませんが、「記述式」の問題に対しては、無解答率が高くなる傾向にあります。

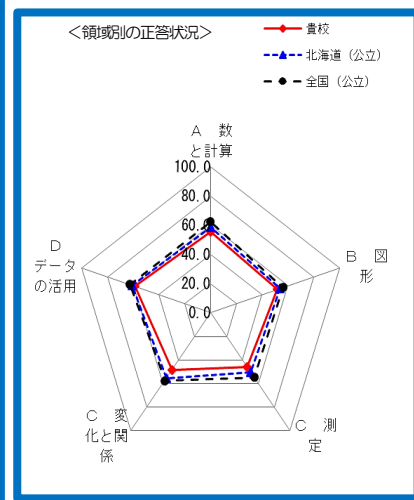
算数

領 域	全国平均との比較
数と計算	下回っている
図 形	やや下回っている
測 定	下回っている
変化と関係	下回っている
データの活用	やや下回っている

問題形式	全国平均との比較	無解答率
選択式	同程度	1.5%
短答式	下回っている	2.2%
記述式	下回っている	3.3%



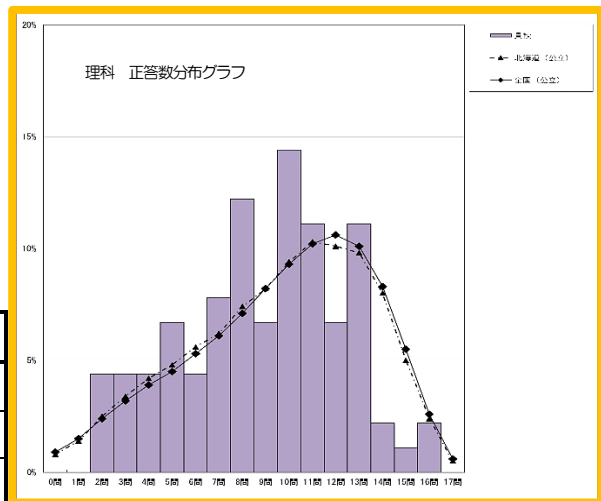
- ★算数全体として・・・全国よりも「低い」結果となりました。
- ★正答数別人数から・・・16問中12問以上（正答率70%以上）正答している児童は約25%。16問中4問以下（正答率30%以下）の児童は約17%おり、国語よりも低位の子が多くいます。
- ★領域（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」）別に見ると・・・「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」5領域全てで全国を下回りました。特に「数と計算」では、分数に関する問題の正答率が低い結果となりました。
- ★問題形式で見ると・・・「選択式」は全国と同程度で、「短答式」と「記述式」は全国を下回りました。
- ★無解答率で見ると・・・3つの問題形式とも全国よりも低かったです。算数でもあきらめずに取り組んだことがうかがえます。「記述式」の無解答率は約3%で、国語の「記述式」よりも無解答率が高くなりました。



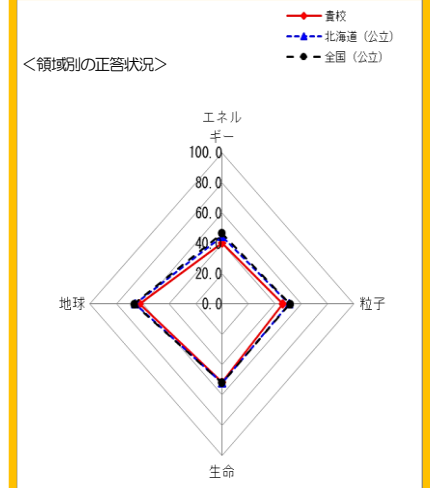
理科

領 域	全国平均との比較
「エネルギー」を柱とする領域	下回っている
「粒子」を柱とする領域	下回っている
「生命」を柱とする領域	同程度
「地球」を柱とする領域	やや下回っている

問題形式	全国平均との比較	無解答率
選択式	やや下回っている	0.6%
短答式	下回っている	1.8%
記述式	やや下回っている	2.2%



- ★理科全体として・・・全国よりも「低い」結果となりました。
- ★正答数別人数から・・・17問中12問以上（正答率70%以上）正答している児童は約23%。17問中5問以下（正答率30%以下）の児童は約20%で、低～中位が多い傾向にあります。
- ★領域（「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域）別に見ると・・・「生命」を柱とする領域は全国と同程度です。「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域は全国を下回りました。
- ★問題形式で見ると・・・「選択式」「短答式」「記述式」とも全国を下回りました。
- ★無解答率で見ると・・・3つの問題形式とも全国より低かったです。あきらめずに問題に向き合い、答えを導き出したことがうかがえます。「記述式」の問題に対しても無解答率はそれほど高くありませんでした。



3. 児童質問紙の結果から

- 自分にはよいところがあると思っている子の割合は約 93%。全国平均よりも高い。
 - 自分にはよいところがないと思っている子は約 7%。
 - 自分にはよいところがないと思っている子はいない。
 - 「当てはまる」と答えた子の割合が昨年度より増加（28.9%→53.3%）。
- 将来の夢や目標をもっている子が約80%いる。
- 国語の勉強が好きな子～約53% 算数の勉強が好きな子～約39% 理科の勉強が好きな子～約86%
 - 算数が好きではない子が約60%もいる。
- 約9割の子が学校に行くのが楽しいと思っている。
 - 学校に行くのが楽しくないと思っている子が約1割いる。
- ICT の活用により、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができたり、友だちと考えを共有したり比べたりしやすかったりすると思っている子の割合が約90%いる。
- 平日に家庭学習で1日当たり2時間以上学習している子の割合は約15%（全国が約25%）。30分以上1時間未満が最も多く、40%。「目安となる学習時間」を達成できている子の割合は約5割。
- 休みの日に学習する時間は、1時間未満が最も多くて40%。全くしない子も約12%（全国が約18%）いる。3時間以上学習する子の割合は約4%（全国が約12%）となっている。



- ・自己有用感は依然として高い傾向にあります。今後も「わたしっていいな！きみってすごい！」を全校で進めていきます。
- ・学校での活動を楽しみにしており、友達と協力しながら生活していると考えられます。
- ・将来の夢や目標を多くの子がもち、学習に励んでいます。算数が好きではない子が多くいるという状況にあります。これからも「わかる」授業、「学びが深まる」授業を目指していきます。
- ・家庭での学習時間は、1時間未満の児童が多く、休日だと学習する時間が少ない傾向にあります。また、年々、学習時間が減少していています。「目安となる学習時間」を達成することを目標に、家庭学習がより充実したものになるようにしていきます。
- ・授業や家庭学習でICTを効果的に活用することにより、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成していきます。

4. 今後の学力向上に向けて

○学習に向かう基本的な姿勢を育てます・無解答をゼロにします

- ・学習ルールやノート指導の一層の定着を図ることで学習環境を整え、学習する意欲を喚起します。特に、「話の聞き方」に関して重点的に取り組み、子どもたち一人一人が落ち着いて学校生活を送ることができるようしていきます。
- ・学校でも家庭でも「一人一台端末」を効果的に活用していきます。
- ・あきらめないで問題に取り組もうとする気持ちを育てるとともに、基礎的・基本的な学力を定着させることによって、あらゆる問題に対応できる力を育てます。

○書く力を高めていきます

- ・授業中は、自分の考えを表現したり、まとめの文章を書いたり、学習の振り返りを書いたりするなど、文章で表現する活動を大事にしていきます。
- ・水曜日のSタイムでは、1、2年生で「視写」に取り組みます。

○「ICT」や「対話」を取り入れた、「子ども主体」の授業を進めていきます

- ・友だちと話し合ったり考えを共有したりする「対話」を取り入れた学習を積極的に行うことで、子どもたちがお互いに高め合えるようにしていきます。
- ・対話を効果的に行ったり、一人一人が自分なりに課題解決をしていったりするために、ICT 機器を積極的に活用していきます。
- ・子どもたちがICTを活用しながら、調べたり、まとめたり、対話したりする時間を十分に確保した「子ども主体」の授業づくりを進めていきます。

「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる」問題です。正答率は約37%で、全国よりも10%以上低い結果となりました。1が正答ですが、本校児童の誤答としては、「世代によってものの呼び方がちがう」と捉えてしまった、3が多かったです。文章全体の構成を捉えて要旨を叙述を基に把握することができていないということが言えます。

【算 数】

1

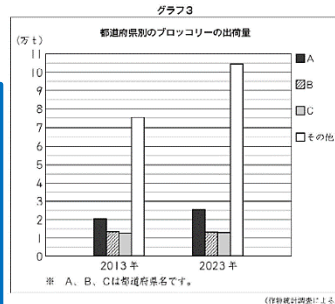
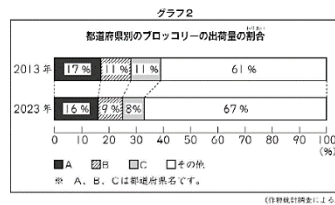
(2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけた。



グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

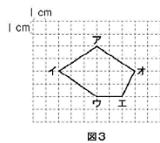
2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうか、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んで、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。
イ 2023年は2013年より減った。



「都道府県 A のブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く」問題です。正答率は約28%でした。グラフ2の出荷量の割合に着目してしまい、出荷量が減ってしまったと判断し、イを選んでしまっている誤答が多かったです。記述式の問題ですが、無解答率は0.0%で、全員が答えを書くことができました。

(4) わかなさんは、図3のような五角形アイエウの面積の求め方を考えています。



わかなさんは、三角形や四角形の面積の求め方が使えるように、図3の五角形アイエウを、2つの図形に分けようとしています。



わかな: 私は、直線イオをひいて2つの図形に分けようと思います。



ゆうた: 私は、直線ウオをひいて2つの図形に分けようと思います。

わかなさんとゆうたさんのどちらの分け方でも、五角形アイエウの面積を求めることができます。

五角形アイエウを2つの図形に分けて面積を求めるとき、あなたならどちらの直線をひいて求めますか。2つの図形に分ける1本の直線を、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。
また、2つの図形の面積がそれぞれ何cm²になるのか、それらの求め方を、図3の中から必要な長さを調べて、式や言葉を使って書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。

- 1 直線イオ
- 2 直線ウオ

※ 必要ならば、下の式を使って考えてもかまいません。

- ・ 長方形の面積 = 長さ × 幅 = 横 × 縦
- ・ 正方形の面積 = 1辺 × 1辺
- ・ 平行四辺形の面積 = 底辺 × 高さ
- ・ 三角形の面積 = 底辺 × 高さ ÷ 2
- ・ 台形の面積 = (上底 + 下底) × 高さ ÷ 2
- ・ ひし形の面積 = 対角線 × 対角線 ÷ 2

「五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く」問題です。正答率は約31%でした。図形を二つに分ける直線を選ぶことまではできているが、分けてできた三角形と台形の面積を求める式や言葉を記述できていない誤答が多かったです。ただ面積を求めるだけでなく、どういうふうに考えたのかを表現する学習が大切だと言えます。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

3



みおり: $\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにするので、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。

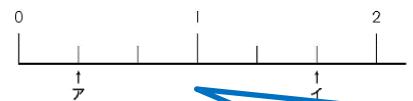


ひろと: $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



分数に関する問題です。(2)は、単位分数のいくつかを数や言葉を用いて記述する問題です。正答率は約9%で、全問題の中で最も低く、全国よりも10%近く低い結果でした。「通分する」ということは分かっているが、通分することによって単位分数を見いだすことができていない誤答が多かったです。(3)は「1をいくつに分けたのか」に着目することができず、分数ではなく小数で答えてしまう誤答が多かったです。計算ができるだけではなく、分数の仕組みや概念についてもしっかり理解させる必要があります。

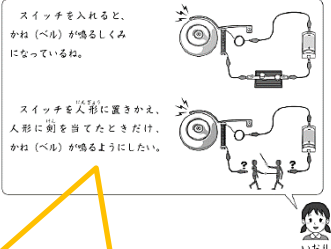
【理 科】

2

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

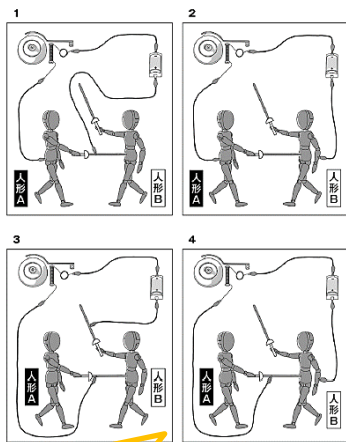
- 1 電気を通し、磁石に引き付けられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつかれない。
- 3 電気を通さず、磁石に引き付けられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつかれない。

いおりさんは、かね(ベル)が鳴るしくみについて考えています。



「アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ」問題です。正答率は約13%でした。電気を通さないと考えた、3と4を選ぶ誤答が多くありました。金属の共通する性質として、電気を通すという知識がしっかりと身に付いていないということが言えます。

(2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね(ベル)が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



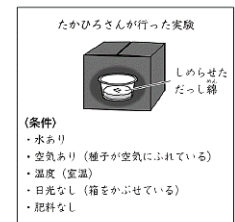
「電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ」問題です。正答率は約36%でした。回路の中に電気を通さない「持ち手」が含まれている、3という誤答が多かったです。電気を通すつなぎ方に関する知識が身に付いていないことが言えます。

たかひろさんたちは、レタスの種子が発芽させようとしています。

3



たかひろ: レタスの種子が発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。



水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の(条件)の中から1つ選んで調べてみたい。

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけた。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

「レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く」問題です。正答率は約23%でした。条件の中の日光や肥料に着目し、記述することができているが、「問題」を表すような記述ができていない誤答が多かったです。日常の授業でも差異点や問題点を基に問題を見いだして適切に表現する活動が大切だと言えます。